

がん社会 を診る

中川 恵一

当たり前のことですが、がんに関連する症状が出たら、すぐに検査をし、適切な治療を進める必要があります。そうすることで治療後の生活の質が大きく変わってくる可能性が高いからです。

歌手でもある有名な音楽プロデューサーが母校の入学式で、喉頭がんのため声帯を摘出したと公表し、衝撃が広がりました。私もその勇気に感動しましたが、数年前から声のかすれがあり、がんはかなり進行していたようです。

実は喉頭がんは、早期のうちでも自覚症状が出やすいのが特徴です。声のかすれや声が出にくい、のどの痛みなどが長く続く場合は、喉頭がんのサインの可能性がります。さらに早期発見すれば、治りやすいがんでもありません。

日本は世界でも有数の手術大国ですが、他の臓器とちが

自覚しやすい喉頭、治癒率高く

い、喉頭がんの治療の基本は手術ではなく、放射線治療です。手術でも放射線治療でも治癒率は同程度ですが、手術では声帯を摘出することになり声を失うため、放射線治療が優先されています。

良い例が、落語家の林家木久扇さん(77)です。早期に治療を開始したため、放射線治療で声を温存できています。実はテレビ番組で一緒にしましたが、2014年6月に声がかすれる症状が出て、すぐに病院を受診、ステージ2と診断を受けて放射線治療を始めたそうです。

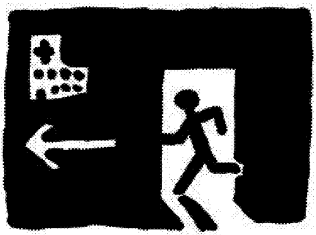
喉頭がんの放射線治療は基本的に外来通院で、土日を除く毎日、6週〜7週間にわたって実施します。副作用はほとんどなく、照射する患部の温度も上がらないため何も感じません。1回の治療は数分でおわり、治癒率は早期であれば8〜9割に上ります。

木久扇さんの場合も、治療終了後2週間で声が戻り、同年9月末には、テレビ番組の収録に復帰して大声を出しています。木久扇さんは胃がんの経験もあり、毎年の検診を欠かさなかったといえます。

喉頭がんはがん全体の0.6%と頻度が低いため、通常の検診メニューにはありません。しかしなんらかの症状があれば、すぐに病院で検査を受けるべきです。

定期的な検診に加え、身体に異変を感じたらすぐに病院を受診して検査をする大切さを、木久扇さんは教えてくれています。

(東京大学病院准教授)



イラスト・中村 久美